

# 視点

## 今こそ連携による伴走支援を！



埼玉県よろず支援拠点  
(埼玉県産業振興公社)  
チーフコーディネーター (CCO)

おち たかふみ  
**越智 隆史氏**

### プロフィール

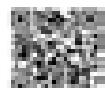
#### ・資格：税理士

全能連認定マスター・マネージメント・コンサルタント

1967年広島県呉市生まれ、横浜育ち。専門学校の職員をしつつ、夜間大学、大学院を経て、34歳で税理士資格を取得。その後、IPO準備やM&Aを経験。30代に、創業と倒産を経験したことが今の夢に繋がる。40代は、主に大手小売りで連結決算や税務等を担当。50歳となった2017年4月に埼玉県よろず支援拠点のチーフコーディネーターになり現在に至る。

渋沢栄一翁が好きで、翁の生まれ故郷である埼玉県を希望した。自らの倒産経験から「潰れにくい会社を多くつくる」ことが夢。心を込め、笑顔と強い気持ちで伴走支援を行うことが信条。

<https://saitama-yorozu.jp/>



はんしん景況レポート第100号おめでとうございます。

その節目に寄稿させていただき感謝に堪えません。寄稿にあたり、題を「今こそ連携による伴走支援を！」といたしました。

これは、コロナ禍で経営環境が激変する中、経営者の皆様に少しでも寄り添いたい、という思いから、中小企業庁が令和4年3月にHPで公表した「伴走支援の在り方検討会」から一部抜粋し、解釈を加え、内容をわかりやすくご案内するものです。

### 1. 経営者を取り巻く環境の変化と第三者の伴走支援

長引くコロナ禍において、脱炭素、DX、人口減少、自然災害等と経営者が対処すべき課題は山積みです。不確実性が高い時代において、中小企業、小規模事業者は経営資源も限られており、この環境に独力で対応することは難しく、かつ、経営課題の見極めも、経営者一人で判断するには、経営環境が多岐にわたり複雑です。

そこで、飯能信用金庫をはじめ、埼玉県よろず支援拠点、商工会議所、商工会など、第三者による伴走支援がとても有効となります。

経営者の皆様は、ぜひ、本稿をお読みいただき、どうぞ、遠慮なく第三者の伴走支援をご利用ください。

### 2. 対話を大切にする伴走支援

埼玉県よろず支援拠点における対話を軸とした伴走支援をご案内します。

私達は、まず、経営者の皆様からお話を伺うこと大切にしています。

例えば、「今の悩みは?」「どんな夢や計画をお持ちか?」「強みは何か?」「会社を設立した理由は?」など、傾聴を通じ経営者の皆様から信頼いただけるように心がけます。

その上で、経営者との対話を繰り返し、一緒に課題解決を考えていきます。そして、経営者自身から「答え」が見出せるように、私達は寄り添います。目指すことは、経営者が自走できるように本来お持ちの力を引き出すことです。この経営者の自走化を促すには、あらゆる相談に対応する必要があり、埼玉県よろず支援拠点では、30名近い専門家がコーディネーターとして在籍しています。すべてのコーディネーターが、経営者が持つ経営の力や会社の力を伸ばしたいと考えていますので、本音、かつ、心を込めて対話を重ねています。

具体的に3つの伴走支援事例をご案内します。

一つ目は、70代後半の経営者の方と一緒に取り組んだ事業承継の事例です。後継者不在に悩まれていましたが、同社が所有する許認可や入札資格に高い価値があることから、毎月対話を重ね3年間の伴走支援を経て、従業員承継が実現しました。私達は、その従業員とも対話を重ね、経営者と従業員の両者から、事業を継がせること、継ぐことへの「腹落ち」を得て、かつ、債務超過のため、借入金のある3つの金融機関の同意もいただきました。

二つ目は、資金繰りがどんぶり勘定で赤字体质になっていた事例です。私達は毎月のように対話を重ね、Excelを使った資金繰り管理などの効率的な管理手法を、その会社の実務に合わせて具体的に案内しました。1年が過ぎるころ、資金繰り管理の大切さに経営者が気付かれ、その管理を自ら定着させたことで、緻密に資金が管理され、結果として、無駄な経費がなくなり、黒字転換が成功した伴走支援となりました。

三つ目は、コロナ禍で債務の返済に苦しむ経営改善の事例です。想定以上にコロナの影響が長引き、経営状況の回復が全国的に遅れていま

す。しかし、2年前のコロナ融資に対する返済は始まっています。その返済のため、他の金融機関から高金利で借入する事例も散見されます。経営者の多くが、この状況をどこにどのように相談すればいいかがわからず苦しんでいます。

私達は、経営者がどのような状況にあっても、相談しやすい雰囲気を心がけており、苦しい状況が確認できたら、経営者と、より多くの対話を重ね、一緒に対策を考えています。

このようなケースでは、経営者と一緒に金融機関へ協力を求め、借入金の条件変更など、経営回復実現への見直しを支援しています。

どの事例も傾聴と対話を重ね、経営者の自走化となった伴走支援です。

### 3. 今こそ連携による伴走支援を

中小企業、小規模事業者の課題は多岐に及びますので、単独の支援機関や専門家だけでは第三者の支援にも限界があります。

そこで、埼玉県よろず支援拠点では、相談内容に応じて、一人の経営者に対し複数の専門家や支援機関が連携することで、多角的な視点で相談者の自走化を支える体制を整えています。

飯能信用金庫と埼玉県よろず支援拠点も連携して伴走支援することが多く、一体となって相談者と対話を重ね、経営者の皆様を応援しています。もちろん、他の金融機関、商工会議所、商工会、他の支援機関とも、連携して経営者を支援する体制です。

このような体制で伴走支援するケースが増えており、激変する経営環境に支援機関が一体となって経営者相談に対応しています。

経営者の皆様、今こそ連携による伴走支援をご利用ください。

そして、飯能信用金庫をはじめとする支援機関の皆様、経営者の方々の自走化に向け、引き続きの連携を宜しくお願ひいたします。

